

吊故山本固一郎君文：文苑

著者	杉山, 富槌
雑誌名	龍南會雜誌
巻	3 2
ページ	3 8 - 3 9
発行年	1894-12-21
URL	http://hdl.handle.net/2298/4486

知、而、及、清、國、開、釁、王、師、所、向、無、不、摧、挫、旭、旗、所、翻、如、崩、厥、角、轉、瞬、之、間、皇、威、輝、四、海、電、閃、之、頃、雄、武、震、八、紘、不、獨、使、清、虜、屏、息、宇、內、各、邦、莫、不、聞、風、而、仰、望、敬、憚、蓋、戰、沒、諸、士、與、有、力、焉、嗚、呼、諸、士、玉、碎、其、身、其、名、萬、世、不、朽、聖、明、酬、之、厚、同、胞、敬、之、深、可、謂、死、有、餘、榮、矣、今、也、王、師、如、破、竹、一、軍、西、征、已、入、清、地、連、陷、諸、城、將、衝、奉、天、一、軍、南、征、已、屯、金、州、將、略、旅、順、進、襲、北、京、其、攻、陷、兩、都、爲、城、下、之、盟、必、不、在、遠、諸、士、亦、可、以、瞑、矣、旅、途、倉、皇、供、祭、無、物、敢、草、鄙、文、以、充、薄、奠、尙、饗、

莊重中有勇躍之氣使人一讀十起

遠湖周平評閱

吊故山本固一郎君文

杉山富樫

維時明治甲午冬十一月。我第五高等學校職員生徒。同爲肥筑修學旅行。迂路過吾亡友山本固一郎君之墓。而吊其靈。夫生死者。命也。不能如之何矣。雖然。知友而去世。誰有不痛惜者哉。悲夫。『全天命而死者。老病而死者。尙且悲之。而不能禁。況抱有爲之才。而夭折者。况又抱有爲之才。保健康之軀。而死於不測之禍者乎。君夙抱有爲之才。保健康之軀。來學我校。孳々而勉。人皆屬望焉。而一朝陷於不測之災。而亡矣。悲夫。』回顧君之逝。在于去年。爾來僅閱二十月。今也。我邦與清國結兵。而連戰連勝。一國之武威。漸顯于宇內。歐米諸邦。稱我以爲東洋之一大強國。豈不快哉。時勢既如此。將來之多事。可推而知。是誠英傑俊秀。

蹶起盡瘁之時也。而君今也。則亡焉。悲夫。我等跋涉肥筑之山河。茲十有餘日。共苦樂。全寢食。或探舊跡。或尋名勝。或觀察人情風俗。以鍛筋骨。練心膽。而獨不與君全此行。痛恨何已。今聊行捧銃之禮於墓前。以表平生纏綿之情。靈而有知。尙來饗。

節々轉換。極見筆力。末段叙經歷之處。語帶風雲。而哀惜之情。自躍出於其中。亦是佳作。

冬十二月

含紫樓主人批

曉發

不老庵主人

さきつ日の行軍に、朝さくありあけの月影いと冴えたるに、列を整へて、喇叭は聲勇ましく立ちいづれば、見渡す限り、野も山も霜いと白うおきて、面を拂ふ朔風の寒さ、銃把る指も凍りて赤くなり、つく息も氷るかど覺えて、いとたへがたげある程に、夜も白らくどあけわたり、朝日いとうらやく立のぼれば、身もやうくのどかにありぬ。こゝらの氣候のいとおだしきにも、かはどの苦はあるものを、まいて遠く唐土のはらに、軍せるつはもの共の勞やいかあらん、彼地はこゝにも聞及ばぬ、寒氣の強き所なりときけり、飢を忍びつゝ、夜をこめては、闇路をたどる折もあらん、あるは路なき所をふみまよひては、澤に陥る時、もあらん、あるはみ山の木の下の岩が根よ宿りては、虎たはかみの聲にも、夢驚かさるゝこともありなん、日本の本のみすらは